

「移動美術館展」イベント

宗像市は中村研一の作品を1点、中村琢二の作品を32点所蔵しています。日本近代美術に名を連ねる二人の画家が宗像市の出身であるということは、宗像市の文化芸術を育む大切な要素となるでしょう。これらの作品を宗像市に住む人たちに知っていただくこと、また、「移動美術館展」に興味を持ってもらうことを目的とし、下記のイベントを行います。

■タイトル：「お気に入りの中村琢二作品に投票しよう！ あなたが選ぶ 中村琢二ベスト10」

■日時 8月16日（土）～ 8月22日（金）10:00～17:30（16,17日は20:00まで）

■会場 美術ギャラリー

■入場無料

■内容：

宗像ユリックスでは、来年1月の平成20年度福岡県立美術展所蔵品巡回展「移動美術館展」開催にさきがけ、宗像市が所蔵する中村琢二の作品約30点を一同に公開します。会場にて来場者のみなさんに自分のお気に入りの作品に投票していただき、ベスト10位までを決定！その結果はユリックス情報誌「ユリックス・サラダ」紙面で発表し、移動美術館展会場にて選ばれた作品を展示します。

移動美術館展 開催要項 (案)

1 展覧会名称

平成 20 年度 福岡県立美術館所蔵品巡回展
「移動美術館展 ー大きなクスの木の下で」(仮称)

2 趣旨

福岡県立美術館では、平成 7 年度に開館 10 周年を記念して、初の福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」を大牟田市、行橋市の 2ヶ所で開催しました。それ以降も毎年県下各地で、県立美術館が長年収集してきた美術作品のなかから選りすぐった優品を紹介してきました。さらに平成 18 年度の高賀市、19 年度の春日市においては、趣旨を新たに「ファーストステップとしての展覧会」と設定し、従来の名品紹介に加え、子どもたちに親しみやすい展覧会づくりを、地域の人たちと協働で実現してきました。

宗像市で開催する今年度は、「ファーストステップとしての展覧会」の趣旨を継続しつつ、県立美術館と宗像市の所蔵作品を併せるかたちで、宗像が誇る近代洋画壇の巨匠、中村研一・琢二の作品に焦点を絞った展覧会を行います。

「大きなクスの木の下で」というサブタイトルにあるクスの木とは、中村研一・琢二の兄弟が、幼い頃に何度も登って遊んだ生家の大木を指すと同時に、現在の宗像市、そして宗像ユリックスを象徴しています。子どもたちをはじめとした多くの市民が、クスの木がある故郷の風景や暮らしに密着したものとして、美術に気軽に出会い、鑑賞を通じて郷土の文化や歴史をより親しく深く知ることは、本展の最も重要な目的といえます。また、本展を通じて、美術を通じたさまざまな出会いの場を、市民自ら創りだしていくきっかけになることを期待しています。

3 会場

宗像ユリックス 美術ギャラリー
〒811-3437 宗像市久原 400 tel/ 0940-37-1483 (事業部直通)
<http://yurix.munakata.com/index.php>

4 会期

平成 21 年 1 月 24 日 (土) ~ 2 月 22 日 (日) 26 日間
月曜日休館
利用時間 10:00~18:00 (入場は 17:30 まで)

5 主催

平成 20 年度福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」実行委員会 (福岡県立美術館、宗像市総合公園管理公社)、宗像市、宗像市教育委員会

6 共催

(財)福岡県教育文化奨学財団

7 後援 (予定)

各放送局・新聞社、宗像市文化協会、西日本新聞 TNC 文化サークル、周辺各市教育委員会等

8 協力 (予定)

中村研一・中村琢二生家美術館、占部建設株式会社、タワー不動産株式会社

9 出品内容 (予定)

県立美術館コレクションの洋画、日本画、写真等約 50 点及び、宗像市や市在住の個人が所蔵する中村研一・琢二の作品約 20 点、合計約 70 点を展示予定。

【出品例】 中村研一、中村琢二、青木 繁、坂本繁二郎、古賀春江、高島野十郎、児島善三郎、大内田茂士 他

10 入場料

一般 210 円 (160 円)

* () 内は 20 名以上の団体割引料金

* 高校生・中学生・小学生及び幼児、65 歳以上の方、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方およびその介護者は無料

* その他実行委員会が認めるものは無料

11 展覧会に関する活動やイベント (予定)

- ・約 20 名のアートボランティアを募集、研修を行い、展覧会準備やワークショップの運営、会場での解説等の活動を行ってもらう。
- ・宗像市所蔵の中村研一・琢二の作品 32 点を事前公開するプレイベント (8/16-22 美術ギャラリーにて、詳細は別紙参照) を開催。会場において、琢二作品人気投票などを行い、半年後の移動美術館展への市民の期待を高めるとともに、ボランティア育成の場としても活用する。
- ・また、会期中にはギャラリートークをはじめ、ワークショップなどを多数開催し、子どもたちの鑑賞に役立つガイドなども配布予定。